令和元年度

教養ゼミ（初年次教育科目）

実 施 状 況 報 告 書

福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

目　　次

経済学部　経済学科	1
経済学部　国際経済学科	2
経済学部　税務会計学科	3
人間文化学部　人間文化学科	4
人間文化学部　心理学科	5
人間文化学部　メディア・映像学科	6
工学部　スマートシステム学科	7
工学部　建築学科	8
工学部　情報工学科	9
工学部　機械システム工学科	１０
生命工学部　生物工学科	１８
生命工学部　生命栄養科学科	２０
生命工学部　海洋生物科学科	２２
薬学部	２４

経済学部　経済学科

■ 担当者氏名

（代表）高阪勇毅
平田宏二、春名章二、田中征史、吉田卓史、野田光太郎、藤本倫史、佐藤彰三

■ ゼミ数，ゼミの学生数

令和 1 年度新入生 182 名を学生番号順に 8 クラスに分割した。1 クラスあたり 20～30 人であった。

■ 実施内容

新入生全体に対して共通するガイダンス等は全クラス合同で行い、それ以外ではクラス担任別で学習指導やゼミ活動を実施した。全クラス合同での実施内容としては、大学生活へのオリエンテーション（学び、目標）、本の読み方、講義の取り組み方、図書館の利用方法、履修指導、コースの説明、各教員によるリレー講座、ビジネス能力検定試験対策講座などである。具体的には、以下のような内容があった。

- 図書館オリエンテーション
- 研究倫理に関する研修、リスク管理に関する研修
- インターンシップに関する説明
- 福山大学の施設について学ぶ
- 一般 Web 検索と論文検索の違いを学ぶ
- コース選択の説明
- リレー講座
- ビジネス能力検定 3 級・2 級試験対策講座

■ 教養ゼミの特徴

初年次教育として「教養ゼミ」は、高校から大学への学習環境をスムースに移行するための学習スキルを身につけて学習意欲の向上にも効果を挙げている。円滑な大学生活を送るために必要な知識や情報を得ることを重視する。また、大学生活を通じて資格取得を促進させる目的で、ビジネス能力検定試験の対策講座を教養ゼミ内で実施しした。

■ 成果

令和 1 年度経済学科で実施した教養ゼミの代表的な成果は、以下のとおりである。

- ビジネス能力検定 3 級に約 6 割、2 級に約 4 割の学生が合格した
- 図書館や他の大学施設に利用方法について学ぶ機会となった
- リレー講座の受講により経済学やスポーツマネジメントに関する幅広い教養を習得する機会となった

■ 課題

担当教員からは教養ゼミの課題として以下のような意見があった。

- クラス担任別の実施回が減ったことにより、グループワーク等の機会を設けられない
- ただ出席しているだけで、真剣に授業に取り組まない学生が多い

経済学部　国際経済学科

■ 担当者氏名

(代表)萩野覚、ビセット・イアン・ジェームス、藤本浩由

■ ゼミの学生数

47 名（うち留学生 6 名）

■ 実施内容

・大学における学修の方法(図書館の利用法等)
・プレゼンテーションの仕方やプレゼンテーション資料作成方法
・国際経済学科各教員による講義
・海外研修プログラムの紹介
・トップ 10 プログラムの紹介
・長期留学について(ブルガリア・中国)の紹介
・オープンキャンパスプレゼンテーション作成(日本人学生)
・三蔵祭プレゼンテーション資料作成、同資料を英訳し英語でプレゼンテーション

■ 教養ゼミの成果等

・プレゼンテーションの仕方やプレゼンテーション資料作成方法を学修した
・英語力が向上した

■ 問題点，改善点及び対応策

・三蔵祭プレゼン資料は、もう少し中身の濃い内容にしたかった。
・留学生についても三蔵祭プレゼン・ポスター展示に積極的に参加させるべきであった。

経済学部　税務会計学科

■ 担当者氏名

大上　麻海

■ ゼミ数，ゼミの学生数

46 名

■ 教養ゼミの特徴

高校から大学への学習環境をスムスに移行するための学習スキルを身に着け、学習意欲を向上させること。

■ 授業のねらい

- 専門科目の学習や卒業論文の作成に必要なスキルの基礎を学ぶこと。内容は、概ね以下の通りである。
- 新聞、雑誌記事を読む
- プレゼンテーション及びプレゼンテーション資料の作成、
- デイスカッション

■ 実施内容

- 大学における学修方法の指導（履修指導、講義の受け方、セレッソの使い方など）
- 大学生活に関するオリエンテーション（学生課、教務課、就職課、健康管理センターなどの紹介）
- 図書館ならびに図書館ホームページの利用方法の紹介（データベースへのアクセス方法など）
- 税務会計学科の紹介（教員、授業、コースなど）
- 自己紹介やグループディスカッションによる交流促進
- 大学生活で起こりがちなトラブルに関する注意喚起（詐欺、勧誘、デートDV などの被害防止）
- 学生生活上の困りごととその解決について考えるグループワークとプレゼンテーションの実施
- コミュニケーション・スキルの向上のための訓練（傾聴とディスカッションの実践）

■ 成果

- プレゼンテーションの仕方やプレゼンテーション資料の作成方法を学修した。
- 新聞や雑誌の記事を読むことによって社会の問題を把握することができた。

■ 課題

- 1 年間を通して、授業担当教員以外の教員の参加がなかった。入学当初、学科教員全員の自己紹介を行ったものの、その後のゼミでの関わりがなかった。学生が学科教員を認識しておくことは、2 年次後期のゼミ選択を円滑にするものであると考えられる。また、学生と教員とのコミュニケーションや所属意識にも影響すると思われる。

人間文化学部　人間文化学科

■ 担当者氏名

（代表） 重迫 隆司

■ ゼミ数，ゼミの学生数

全 1 年次生 60 名

■ 授業のねらい

(1)1年生全員が教員全員と顔を合わせる。
(2)学生全員がお互いに交流を深める。
(3)大学における学修への動機付けを高める。
(4)卒業時の到達目標を明確化することで、自分に自信を持つ。

■ 学修の到達目標

大学生として必要なコミュニケーション能力の基礎となる力を身につける。
＊コミュニケーション能力の基礎となる力：聴く力、話題に参加する力、質問する力、自分の言葉で自信を持って発表(プレゼンテーション)する力など。

■ 実施内容

第1回(4/11)〈授業ガイダンス〉〈全教員〉
第2回(4/18)〈図書館ガイダンス/保健管理ガイダンス〉〈全教員〉
第3回(4/25)〈保健管理ガイダンス/図書館ガイダンス〉〈全教員〉
第4回(5/9)
第5回(5/16)
第6回(5/23)
第7回(5/30)
第8回(6/6)
第9回(6/13)
第 10 回(6/20)
第 11 回(6/27)
第 12 回(7/4)
4 グループ（教員 2 名ずつ）に分かれてテーマを決め、各テーマに沿った調査を実施。その結果を「全体発表」に向けてまとめる。
第 13 回(7/11)全体発表〈全教員〉
第 14 回(7/18)学生サポーター授業＆大学祭の打ち合わせ〈全教員＋学生サポーター〉
第 15 回(7/25)大学祭の打ち合わせ〈全教員＋学生サポーター〉

■ 教養ゼミの成果

毎時間の学生コメント、全体発表におけるプレゼンテーションより、全員が到達目標に達したことを、学生、教員ともに確認した。

■ 問題点，改善点，対応策

教員のオムニバス授業から、グループ学習・発表へと授業デザインを改善した。教員間での振り返りでは、各グループのテーマや発表方法に関して統一を図ったほうがよいのはという意見もあり、今後の課題とした。

人間文化学部　心理学科

■ 担当者氏名

赤澤　淳子，枝廣　和憲，金平　希，日下部　典子

■ ゼミ数，ゼミの学生数

ゼミ数4，各ゼミに16名～17名の1年生が所属した。

■ 実施内容

前期

①ピア・サポート訓練（教員＋学生サポーター）

主な内容:ピア・サポートとは（自分自身を知ろう，コミュニケーション），傾聴について（聴き方のロールプレイ，話し合ってみよう），ストレスへの対処

②プロブレム・ベイスド・ラーニング（PBL）（教員＋SA）

7～8 名のスモールグループで，「大学生活での気になる出来事」についてのプリントを基に，話し合いを通して課題を見つけ，その解決方法までをまとめた。最後に全体で各グループの発表を実施した。

③新入生歓迎会（2 年生主催）

④その他（福山市保健所による「ゲート・キーパー研修」）

後期

①レポート作成を学ぶ（教員＋SA）

考文献の探し方，引用文献の書き方，レポートの構成などをテキストに基づいて学び，各自が心理学に関わるテーマを見つけて，レポートの書き方を実習した。

②読書感想文を書く

③その他（29 号館案内，学生相談室案内およびメンタルヘルスについての講義（講師:松本先生），図書館案内を実施）

■ 教養ゼミの成果

【授業全般】

初回は1年次生全員を対象に，松田学長による特別講義（「ピア・サポート」という概念の紹介と必要性についての説明）が実施された。その後①ピア・サポート訓練では，心理学科教員と3，4年生の学生サポーターが「ピア・サポートをはじめよう」をテキストに，学生同士がサポートしあうためのスキル（傾聴の基本スキルや質問・伝達スキル）の訓練を行なった。ロールプレイや話し合いを中心とした授業に出席することで，傾聴やサポートの重要性を経験し，互いに支えあう関係を築くことができた。また，②PBLでは4回のスモールグループディスカッションや発表等の活動を通して，グループでの役割，課題を見つけるところから発表までのプロセスを学び，グループ・ディスカッション・スキルを修得することができた。さらに，臨床心理士による「ゲート・キーパー研修」で，心理学で学んだことを活かすことについて知ることができた。

後期は，テキストに基づいて，論文作成の基礎を学んだ。図書館で各自のテーマに関わる参考文献を探し，引用文献の書き方に基づいて，レポートを作成することができた。また，読書感想文をまとめ，各ゼミで発表し，意見交換をすることができた。「学生相談室案内」を通してメンタルヘルスの重要さについて知ることができた。

【上級生からのサポート】

3年生，4年生:①ピア・サポート訓練では，学生サポーター養成講座のメンバーが3～4名ほどでグループを形成し，各教養ゼミに配属された。サポーターは10回の講義を通して1年生に対するピア・サポート訓練を実施した。また，前期②PBLでは，各ゼミに1名のSAが配置され，グループワークのサポートをした。後期は図書館で参考文献を探す手助け，引用文献の書き方などについて個別にサポートをした。

このような上級生がサポーターとして授業に参加することで，1 年生のピア・サポート訓練の効果が上がり，グループワークがスムーズに進むなど，学年を越えた交流が促進された。

■ 今後の課題

欠席回数の多い学生への対応を考えていく。

2 年次の実験実習及びリサーチ実習のレポート作成に活用できるスキルの学習課題を検討する。

■ 特記事項

今年度も，心理学科教員が作成した冊子（ピア・サポート訓練のテキスト）を1年生に配付した。

新入生合宿オリエンテーションでは学生サポーター養成講座の学生が考案したプログラムを実施した。

人間文化学部　メディア・映像学科

■ 担当者氏名

（代表）：渡辺浩司

■ ゼミ数，ゼミの学生数

ゼミ数：3（一年次担任：中嶋、田中（後期より安田）、内垣戸）
ゼミの学生数：12 名程度

■ 前期実施内容

- 教務委員によるガイダンス
- 学生生活や学修に関するアンケート調査、SPI のトライアル
- 少人数ゼミ（ゼミ学生の交流）
- 学科・大学の施設設備ガイダンス
- 学科教員によるゼミ（研究紹介等や地元企業とのコラボ授業など）
- デートDV 講座
- 教養講座参加

■ 後期実施内容

- 教養講座参加
- 異学年交流

■ 前期教養ゼミの成果等

受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、学科に関係する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。

■ 問題点，改善点

特に大きな問題は無かったものの、1 年生のみの繋がり構築に留まっており、上級生との繋がり構築に至るようなプログラムを加えることが時間割の都合等から難しかった。

工学部　スマートシステム学科

■ 担当者氏名

代表:伍賀　正典
　宮内　克之、三谷　康夫、仲嶋　一、田中　聡、香川　直己、関田　隆一、菅原　聡、沖　俊任、伍賀　正典

■ 実施内容

1 回目(4/8) 概要説明、自己紹介
2 回目(4/15) 授業の受け方、ノートの取り方
3 回目(4/22) 図書館訪問
4～7 回目(5/11、5/13、5/20、5/25) 小グループゼミ
8～15 回目(5/27、6/3、6/10、6/17、6/24、7/1、7/8、7/22) グループワーク

■ 教養ゼミの成果等

- 初回では大学と学科についての説明の後、各自が自己紹介を行った。
- 2回目では基礎的なスキルとしてのノートの取り方や授業の受け方について指導した。
- 3回目では、図書館に訪問し図書館職員による図書館利用の方法説明を行った。
- 合宿オリエンテーションで実施した数学テストの結果から小グループに分けた。
  この小グループでゼミを行い数学基礎などの学力底上げを行った。
- 8～15回目まで、グループワークとしてロボットを用いた企画・運営・参加を行った。各グループで自発的に役割分担が行われ、レスコンシーズのロボットキットの作成、ブレインストーミングや線表を用いたスケジュール管理方法、パワーポイントでの企画の発表、競技会の実施と参加等を行い、グループでの協調作業を経験した。
- ロボットイベント企画の課題では 3 号館 1 階のプロジェクトルームを用い、イベントは 3 号館エントランスホールで開催した。このグループでの作業は学生間の交流を深める狙いもあり、十分な効果が出ていると考えられる。

■ 問題点，改善策，後期での対応策

- ここ数年、教養ゼミ予算を利用してロボットイベントを開催しており、1年生同士の親交が深まり良い効果が得られ、またこのプロジェクトを中心に学会発表や学外イベントなども実施できており、方針として維持していきたい。
- 工作が不得手な学生のスムースなスキルアップを促すような、教材の開発を提案したい。学科での学習で必要となるマイコンの知識、プログラムの基礎などを取り入れることが効果的ではないかと思われる。
- 今回のロボットイベント企画はこれまでの教材を一新し、学生の意見を取り入れドローンを購入し活用した。これにより学生のモチベーションも高く、三蔵祭へのイベント出展を行い、全国大会出場、学生による学会発表に繋がり模範的な展開のモデルとなった。

工学部　建築学科

■ 担当者氏名

（代表・1年担任） 藤原美樹、伊澤康一、酒井要
大島秀明、宮地功、田辺和康、都祭弘幸、佐藤圭一、佐々木伸子、山田明

■ 教養ゼミの目的

建築の初学者に対する入門授業として、「建築」で取り扱うジャンルがデザイン・計画・歴史・環境・構造・構法といった理系から文系にわたる広範な分野を扱うことを知ることを目的としている。

自分が建築学科での学びにおいて、どのジャンルについて取組んでいきたいかを決めていくための第一歩として、各教員の専門性を活かした内容の少人数ゼミナール形式によるグループワークによって、「建築」が取組むジャンルや内容についての理解を深め、建築に対する興味の掘り起こしのキッカケづくりとしていく。

■ 実施内容

授業は、建築への興味と理解を深めていくために、6～7 名の学生を全教員がゼミ形式で分担して担当し、第1回～14 回までを各ゼミ単位でのグループワークを PBL（Problem-based learning：課題解決型学習）形式で進め、学生自らが課題を探すことから取り組みを始めた。

各ゼミ単位での取り組みにおいて、次の3項目を共通事項としている。

1）対象フィールドは、備後地域（松永・福山・尾道）をコアに周辺地域も対象に含める
2）設定した「共通テーマ」を基に、各研究室で取組む具体的なリサーチ課題を設定する
3）具体的に取組む内容は、各研究室の専門性・特長を生かした視点・内容で設定する

最終回は、ポスターセッション方式による成果発表会を実施し、他のゼミで取り組んだプレゼンテーションも聴講することによって、建築で取り組む幅広いジャンルと内容を学ぶ機会とした。

今年は、昨年度の反省から、身近な建築の課題について考えられるテーマとして、「暮らしをよくする」を共通テーマとして、各研究室の専門性を活かしたテーマを設定して取り組んだ。

■ 教養ゼミの成果

グループワークでゼミ毎に取り組んだ成果をポスターセッション形式により発表する際、担当教員による採点の他に学生による相互評価も行った。自ら評価をすることによって、他のゼミのテーマも詳しく知ることができ、発表会に主体的に参加できるという効果があった。

■ 課題

昨年度の「災害」をテーマとした反省として、建築の初学者が取り組みやすい身近なテーマとして「暮らしをよくする」を共通テーマに設定したが、対象とする「暮らし」の捉え方が個人から地域を対象としたものまで各研究室によって取り扱った内容が大きく違ったものになってしまった。

工学部　情報工学科

■ 担当者氏名

（代表）中道上
　山之上卓、尾関孝史、占部逸正、金子邦彦、新谷敏朗、宮崎光二、池岡宏、森田翔太

■ 目的

　1年次生に対し、少人数クラスを編成し、初年次教育の一環として、コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーションなどの能力を伸ばす。あわせて、大学での学び、情報工学科での学びについて詳細を説明し、学生自らが大学でのより良い学びができるよう情報提供と指導を実施する。また、学生は、教養講座を受講し、幅広い学問的視野と教養を身に付ける。

■ 実施内容

　実施回数 15 回のうち、7 回は、1）単位、時間割、履修方法の確認、2）受講の心得（勉強の仕方）、3）履修登録確認、4）学生相談室、図書館の利用法、5）大学生活について（課外活動や大学祭など）、6）資格取得、7）マナーアップ作戦として工学部新棟付近の清掃活動も実施した。残りのうち 3 回はグループワークを行い、5 回は教養講座を割り当てた。グループワークでは、学生を 7 人程度のグループに分け、各グループにコーディネータ役の教員1名を配置し、テーマを学生自ら発案してのグループディスカッション等を通して、創造性、自主性、論理的思考に関する実習を実施した。具体的には、

　第 1 週　全体説明、グループ分け、アイスブレイク、連想と発想、アクティブラーニング、マインドマップ
　第 2 週　グループ内での教えあい、アイデアの結合、論理的思考
　第 3 週　スピーチ、聴講

を行った。グループワークでは、教養ゼミの趣旨を考慮し、

　・学生同士のコミュニケーションの機会を多くとり、お互いの理解を深める
　・学生と教員が接する機会を多くとり、学生と教員の距離を縮める
　・コミュニケーション、ディスカッション、論理的思考、文書作成、スピーチ

を到達目的とした。
教養ゼミの他の活動として、学科の特別講演会や、学科の大学祭への参加があった。

■ 成果等

　教養ゼミを通して、大学生活や大学施設の利用方法を学んだ。また、少人数のグループにわかれてプレゼンテーションの準備作業を行うことによって、学生同士のコミュニケーションが活発になり、お互いをより深く理解できるようになった。多くの教員と話をする機会を多くとることにより、担任以外の教員とも気軽に話せる雰囲気を作ることができた。また、論理的な資料の作成方法の実習、スピーチの実習を通して、基礎的なプレゼンテーションスキルを修得させることができた。

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

内田 博志

■ ゼミの学生数

4 名

■ 実施内容

第 1 回　キャンパスライフの基礎知識
第 2 回　福山大学を知ろう
第 3 回　福山大学を活用しよう
第 4 回　映画から人生を学ぶ（1）
第 5 回　基礎教養ゼミ（1）大学とは　ー　大学で何を学ぶか
第 6 回　基礎教養ゼミ（2）大学とは　ー　大学生としての自覚と責任
第 7 回　基礎教養ゼミ（3）企画力とチームワーク1　ー　大学祭イベントの企画書を作ろう
第 8 回　基礎教養ゼミ（4）企画力とチームワーク2　ー　大学祭イベントの計画書を作ろう
第 9 回　基礎教養ゼミ（5）創造力を磨く　ー　モノづくりのまち備後に学ぶ、地元企業経営者講演
第 10 回　映画から人生を学ぶ（2）
第 11 回　映画から人生を学ぶ（3）
第 12 回　折紙ロボットを作ってみよう(1)
第 13 回　折紙ロボットを作ってみよう(2)
第 14 回　折紙ロボットを作ってみよう(3)
第 15 回　特別講義（企業における開発・設計）
第 16 回　㈱シギヤ精機製作所　工場見学
第 17 回　教養講座（1）
第 18 回　教養講座（2）
第 19 回　教養講座（3）
第 20 回　教養講座（4）
第 21 回　教養講座（5）

■ 教養ゼミの成果等

第 1 回～第 3 回では、大学での学び方や大学生活の送り方など、大学新入生として持つべき心構えや基本知識を学習した。第 5 回～第 9 回は学科共通の基礎教養ゼミとして、大学生としての目的意識、責任感、企画・計画力、また地元企業の特徴について学習した。第 4 回および第 10 回～第 11 は、「映画から人生を学ぶ」というタイトルで、大学生生活や若者の進路に関する映画を鑑賞して、感想を述べあった。第 12 回～第 14 回は「折紙ロボットを作ってみよう」というタイトルで、紙製ロボットを手作りする演習授業を実施した。第 16～第 21 回は大学主催の教養講座を聴講した。

複合的な要素を含んだ授業内容とすることで、学びに広がりを持たせることができ、初年次教育としての十分な成果が得られたものと考える。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

映画鑑賞を通じて大学生活のあり方や将来の進路について考える取り組みは初めての試みであったが、受講生らは興味深く受講し、十分な内容のレポートを提出した。初年次教育として意義のある授業内容と思われるので、来年度以降も継続して実施する。折紙ロボット作りの演習は、ロボットをコンピュータ制御で動作させる段階まで進みたかったが、時間不足でロボットの一部を製作するにとどまったため、内容の変更を検討する。

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

真鍋 圭司

■ ゼミの学生数

3 人

■ 実施内容

1. はじめに、自己紹介など
2. 大学生活、単位の取り方、試験など
3. 大学での学習方法、レポート作成方法
4. 大学の施設、勉強方法など
5. 基礎教養ゼミ（1）　大学で何を学ぶか
6. 基礎教養ゼミ(2)　大学とは―大学生としての自覚と責任
7. 基礎教養ゼミ(3)　企画力とチームワーク(1) -大学祭イベントの企画書を作ろう
8. 基礎教養ゼミ(4)　企画力とチームワーク(2)-大学祭イベントの計画書を作ろう
9. 基礎教養ゼミ(5)　創造力を磨く―モノづくりのまち備後に学ぶ
10. 数学に親しもう。関数について考える。変化率、微分
11. 微分の公式を覚えよう。
12. プレゼンテーションの基礎
13. 微分の問題を解き、解き方を説明する
14. 物理と数学がどのように関連しているか考えよう。
15. 特別講義
16. 工場見学会
17. 教養講座(1)
18. 教養講座(2)
19. 教養講座(3)
20. 教養講座(4)
21. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

大学生活を始めるための基本的なことは十分説明できたと思う。大学の施設案内では図書館を見学した。5回から9回目までの基礎教養ゼミは全員が集まって討論などをし、特別講演も開催された。工場見学は8月にシギヤ精機の見学を行った。本ゼミでは数学を題材にして、数学Ⅰで学習している問題を解いてプレゼンテーションし、コミュニケーションを取り合った。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

数学の基礎問題に取り組んだ。パソコン必携化のパソコンを持参してグラフを書いた。学生の一人は留学生であった。話す機会を与えたが、学生同士のコミュニケーションは十分とは言えず、次回の課題である。

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

坂口 勝次

■ ゼミの学生数

3 名

■ 実施内容

第 1 回　オリエンテーションと他己紹介
第 2 回　キャンパスライフ
第 3 回　スタディスキルズ
第 4 回　図書館オリエンテーション
第 5 回　基礎教養ゼミ （1)大学とは　ー　大学で何を学ぶか
第 6 回　基礎教養ゼミ （2)大学とは　ー　大学生としての自覚と責任
第 7 回　基礎教養ゼミ （3)企画力とチームワーク1　ー　大学祭イベントの企画書を作ろう
第 8 回　基礎教養ゼミ （4)企画力とチームワーク2　ー　大学祭イベントの計画書を作ろう
第 9 回　基礎教養ゼミ （5)創造力を磨く　ー　モノづくりのまち備後に学ぶ
第 10 回　テーマの趣旨説明と設定
第 11 回　情報収集･分析
第 12 回　資料づくり
第 13 回　プレゼンテーションの準備
第 14 回　プレゼンテーション
第 15 回　特別講義「企業でのモノづくり」:ダイキョーニシカワ㈱　吉川秀明　講師
第 16 回　工場見学 （8 月 5 日, ㈱シギヤ精機製作所）
第 17 回　第 1 回教養講座
第 18 回　第 2 回教養講座
第 19 回　第 3 回教養講座
第 20 回　第 4 回教養講座
第 21 回　第 5 回教養講座

■ 教養ゼミの成果等

「環境環境問題を考える」を統一テーマとし，学生自身が設定した個々のテーマは，地球温暖化，環境破壊，ゴミ問題であった。これら個々のテーマの現状，原理･仕組みや対策の取組みについて情報収集･分析･整理した結果をプレゼンテーションし，SGD を通じて考察を深めることができた。これによって，地球環境破壊の深刻さや環境技術の現状をあらためて認識し，これからの安心･安全な循環型社会をめざして技術者として社会に貢献する態度を醸成する意味でも，本学科における学修の意義を再認識する機会になったと思われる。

また，大学での学修に関する技能･態度，基礎教養ゼミを通じて大学での学び等の態度を身に付ける取組みのほかに，工場見学を開催してモノづくり現場の一端を知る機会を設け，企業人（技術者）を講師に招いて産業界でのモノづくりの現状と技術者の仕事と心構えを知るための「特別講義」を開催した。これらの取組みが，将来に向けてこれからの学修生活をどのように送るかを具体的に考える機会になったと思われる。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

学生自身が学びの意義を強く認識できるように，実際のテクノロジーにも触れていく。

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

木村　純壮

■ ゼミの学生数

3 名

■ 実施内容

第 1 回　ガイダンス，顔合せ・挨拶，授業実施方法説明，自己紹介準備
第 2 回　自己紹介，反省・感想記入，スピーチ，大学環境
第 3 回　大学生活について　大学と高校の相違点，大学生活の送り方の注意
第 4 回　学習方法，受講の心構え，授業の聞き方，ノートの取り方，授業外学修
第 5 回　大学とはー大学で何を学ぶか
第 6 回　大学とはー大学生としての自覚と責任
第 7 回　企画力とチームワーク(1)ー大学祭イベントの企画書を作ろう
第 8 回　企画力とチームワーク(2)ー大学祭イベントの計画書を作ろう
第 9 回　特別講義　学外講師(カーラリーメカニック・ドライバー)
第 10 回　大学生活と就職，就職概略スケジュール，企業情報
第 11 回　就職活動，就職試験，SPI適性検査模試実施(理科・物理関係)，解説
第 12 回　仕事と資格，機械設計技術者試験 3 級，機械技術者関係資格
第 13 回　時事問題　調査・整理・プレゼンテーション
第 14 回　高校生活と変わった点　将来計画策定　プレゼンテーション　感想発表
第 15 回　特別講義 「企業におけるモノづくりの方法」(企業講師)
第 16 回　教養講座(1)
第 17 回　教養講座(2)
第 18 回　教養講座(3)
第 19 回　教養講座(4)
第 20 回　教養講座(5)
第 21 回　企業見学会

■ 教養ゼミの成果等

初年次教育として，大学生活への適応や注意点，基礎力の育成と大学生活の目標，将来計画等をテーマとして取り扱った．第 5 回から第 9 回までは，機械システム工学科 1 年生クラス全体によるアクティブラーニングを行った．テーマは，「大学とは」，「チームによる大学祭イベント企画書の作成」，「地元出身者の人生経験談」．毎回の授業において，説明・問題提起，考察，整理，プレゼンテーション，質疑のプロセスを経るようにして，学生が自分で考えること，プレゼンテーションやディスカッションの機会が増えることを重視した．学生も積極的に，関心を持って取り組み，内容の重要性も理解しつつ，概ね良好な評価であった．

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

企業見学会において地元企業の工場を見学させていただいたが，マナーを守れないケースが発生した．事前の説明・指導・注意を充分に行う必要がある．

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

加藤　昌彦

■ ゼミの学生数

3 名

■ 実施内容

第 1 回教養ゼミの説明、自己紹介
第 2 回　初年次教育（大学の施設・設備、大学での授業）
第 3 回　初年次教育（学生生活、卒業後の進路、機械工学の学習、4 年間の勉学）
第 4 回　初年次教育（BYOD パソコンによる OOFICE ソフトの活用）
第 5 回　基礎教養ゼミ（1）（大学とは―大学で何を学ぶか）
第 6 回　基礎教養ゼミ（2）（大学とは―大学生としての自覚と責任）
第 7 回　基礎教養ゼミ（3）（企画力とチームワーク（1）―大学祭イベントの企画書を作ろう）
第 8 回　基礎教養ゼミ（4）（企画力とチームワーク（2）―大学祭イベントの企画書を作ろう）
第 9 回　基礎教養ゼミ（5）（想像力を磨く―モノづくりのまち備後に学ぶ）
第 10 回　片持梁の強度試験1　ルール説明およびアイデア醸成
第 11 回　片持梁の強度試験2　梁の試作と評価
第 12 回　片持梁の強度試験3　有限要素法による梁の評価 1
第 13 回　片持梁の強度試験4　有限要素法による梁の評価 1
第 14 回　片持梁の強度試験5　強度評価とまとめ
第 15 回特別講義
第 16 回企業見学会
第 17 回　教養講座①
第 18 回　教養講座②
第 19 回　教養講座③
第 20 回　教養講座④
第 21 回　教養講座⑤

■ 教養ゼミの成果等

第 1～4 回で、教養ゼミの意義、大学での勉強方法、生活態度、就職のための準備等について説明し、今後の勉学・生活面で進むべき方向を理解させた。第 5～9 回では、基礎教養ゼミとして大学教育の意味、創造性を醸成させた。第 10～14 回では、機械工学専門科目の一つである材料力学のイントロ講義として、ケント紙を使ったコンテスト競技型授業を行った。

■ 問題点，改善点，次年度での対応策

第 10 - 14 回はアクティブ型授業としており学生の学習意欲は高い。BYOD を使用した強度計算を実施し、学習内容を深めた。

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

関根　康史

■ ゼミの学生数

3 人（当初は 4 人だったが1人退学）

■ 実施内容

1. はじめに,自己紹介など
2. 大学生活，単位の取り方，試験など
3. 大学での学習方法やレポートの作成方法について
4. 大学の施設や勉強方法など
5. 安全を考えよう（その 1）「ペダル踏み間違い事故」は何故発生するか（前編）
6. 安全を考えよう（その 2）「ペダル踏み間違い事故」は何故発生するか（後編）
7. 安全を考えよう（その 3）「自動車アセスメント」から安全を考える
8. 安全を考えよう（その 4）「交通事故の事例」から安全を考える（前編）
9. 安全を考えよう（その 5）「交通事故の事例」から安全を考える（後編）
10. 特別講義
11. 基礎教養ゼミ（1）大学で何を学ぶか
12. 基礎教養ゼミ（2）大学生の自覚と責任
13. 基礎教養ゼミ（3）企画力とチームワーク（1）
14. 基礎教養ゼミ（4）企画力とチームワーク（2）
15. 基礎教養ゼミ（5）創造力を磨く
16. 教養講座(1)
17. 教養講座(2)
18. 教養講座(3)
19. 教養講座(4)
20. 教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

今年度配属された学生は当初 4 名であったが、1 名が家庭の事情のため、9 月末付けで退学してしまい。現在は 3 名である。（退学した学生の成績は良好であったが、実家(佐賀県)から下宿させるだけの余裕がなくなったことから本人および保証人が退学を決めた）。なお、前期における授業については、全員出席率も良く、特に問題は無かった。授業内容については、最近 TV や新聞などで社会問題視されている「ペダル踏み間違い事故」に関する初歩的な実験や、大型車の衝突時の救出性に関する模型実験なども行った。これにより、学生にも、身体を動かすことで、安全に対してより一層の理解を深めることが出来たと思う。また、図書館の見学も実施した。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

今年度の教養ゼミについては、欠席もほとんどなく、問題となることは無かった。次年度においても、座学だけでなく、実験のようなことを実施していきたいと考える。また、図書館の見学も実施したい。

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

中東　潤

■ ゼミの学生数

3 名

■ 実施内容

【第1回】オリエンテーション、自己紹介
【第 2 回】大学生活について（単位の取得、定期試験、大学施設について）
【第 3 回】課外活動のすすめ
【第 4 回】図書館の使いこなし方
【第 5 回】基礎教養ゼミ(1)大学で何をやりたいか話し合ってみよう
【第 6 回】基礎教養ゼミ(2)大学でやりたいことを実現するためのシナリオを作ろう
【第 7 回】基礎教養ゼミ(3)大学祭でやりたいことを話し合ってみよう
【第 8 回】基礎教養ゼミ(4)大学祭りの企画書を作ろう
【第 9 回】基礎教養ゼミ(5)モノづくりのまち備後を学ぶ
【第 10 回】キャリアデザイン
【第 11 回】リサーチの方法（テーマ：学生がだまされる危険について）
【第 12 回】プレゼンテーションの方法、テーマ決定、発表用資料の作成
【第 13 回】口頭発表準備
【第 14 回】プレゼンテーション
【第 15 回】特別講義
【第 16～20 回】教養講座
【第 21 回】企業見学会

■ 教養ゼミの成果等

受講生の主な感想は以下の通りである。
・勉強や課外活動、就活についてなど、大学に関する様々なことを学ぶことができた。特に資格やそれにつながる就活など、残り 3 年半でしっかりやっていきたいと思った。
・プレゼンテーションをしたことがない自分にとっては良い経験になった。今後反省点を生かしていきたい。
・グループワークにやりがいを感じた。コミュニケーション能力等、グループワークで得られる力を身につけたい。
・自分の PR によって相手に与える印象が違うことを学んだ。・
・プレゼンテーションで「地震・津波」についてリサーチして発表したことと、グループワーク（大学祭の企画）で何を企画するかについて話し合ったことが印象に残っています。

本年度の受講生は3名と少なかったが、各々において様々なことを学んでくれたと思う。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

本年度の受講生は3名と少なかったが、各々において、様々なことを学んでくれたのではないかと思う。次年度以降も引き続き同様なスタイルで実施したいと思う。ただし、教養講座については、出席しても講演概要や聴講感想の記述内容が乏しい学生がいたので、今後は注意喚起していきたい。また、欠席の多い学生がいたので、このあたりも改善を図りたいと思う。

工学部　機械システム工学科

■ 担当者氏名

小林 正明

■ ゼミの学生数

4 名

■ 実施内容

“モノづくりを楽しもう！”というテーマで実際にモノづくりを行いながらレポートの作成方法、プレゼンテンション方法などを学習した。
1）オリエンテーションと自己紹介
2）大学生活について
3）大学での勉強方法など
4） 大学施設の見学
5）基礎教養ゼミ(1） 大学とは　大学で何を学ぶが
6）基礎教養ゼミ(2） 大学とは　大学生としての自覚と責任
7）基礎教養ゼミ(3） 企画力とチームワーク(1） 大学祭イベントの企画を作ろう
8）基礎教養ゼミ(4） 企画力とチームワーク(2） 大学祭イベントの計画書を作ろう
9）基礎教養ゼミ(5） 外部講師による特別講演
10） ペーパーパラシュートの製作(1) 検討・制作
11） ペーパーパラシュートの製作(2) レポート作成・発表
12） 紙動力自動車の製作(1) 検討・制作
13） 紙動力自動車の製作(2) 制作
14） 紙動力自動車の製作(3) レポート作成・発表
15） 特別講義　企業講師による特別講演（外部講師）
16）企業見学
17）教養講座(1)
18）教養講座(2)
19）教養講座(3)
20）教養講座(4)
21）教養講座(5)

■ 教養ゼミの成果等

本年度は各テーマを実施する前に大学での勉強内容だけでなく学生生活や就職活動などについて講義やグループで相談しながら進める SGD 形式で企画力やチームワークなどを学習した。受講生から学生生活や就職活動のことについて質問が多くあり学生生活について理解が深まったものと思われる。基礎教養ゼミでは、4 回にわたって、“大学生とは”、“企画力とチームワーク”というテーマについて SGD 形式で行った。後半は、簡単なモノづくり教材を用いてモノづくりの大切さ、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法などを学習した。受講生は教養ゼミの時間だけでなく講義の空き時間などを使って各テーマに取り組んでいた。 モノづくりに挑戦することで創造する楽しさや達成感を得ることができたと思われる。 また、外部講師による講演では、講師がパリダカールラリーへ挑戦した貴重なお話を聞くことができた。受講生はこれからの大学生活にとって大変有意義な機会であったと思われる。

■ 問題点，改善策，次年度での対応策

自分で考え行動することができるようになることをテーマに授業を進めてきた。しかし、積極的に取り組んでいる学生とそうでない学生との取り組み方が異なっていた。SGD を積極的に取り入れることによって学生の学修のモチベーションの向上につなげた。

生命工学部　生物工学科

■ 担当者氏名

（代表）松崎浩明
　山本覚、秦野琢之、久冨泰資、原口博行、岩本博行

■ 生物工学科教育プログラムにおける教養ゼミの位置付け

　生物工学科では、学習意欲を高め、目標を設定し達成することを目的として、演習科目や実験科目を教育プログラムに多く取り入れている。本学科カリキュラムにおいて教養ゼミは、本学・本学科の教育の特徴の理解を深めさせ、一般教養を高めながらさらに幅広く事象に対する興味を喚起する科目として位置付けて開設している。さらに、初年次教育として、受講生が高校から大学の学修・生活へスムーズに移行し、またセミナーや実体験を通して受講生同士及び受講生と教員間で密にコミュニケーションを取ることで教員や友人との信頼関係を構築し、協調性や自主性を育成することを目指す。コミュニケーション力を育成するためにプレゼンテーションやディスカッションなどを積極的に取り入れて実施している。

■ 実施内容

前期
第1回　教養ゼミガイダンス及びオリエンテーションの追加（授業履修登録等）
第2回　大学における履修と学修　-「大学での履修」や「生徒と学生の違い」を考える-
第3回　学生生活について　-どのような学生生活を送るかを考える、自己管理術、年間目標の作成-
第4回　学生生活について　-図書館オリエンテーション-
第5回　植物の栽培　-福山大学ワインプロジェクト概説-
第6回　福山大学と生物工学科を知る　-福山大学と生物工学科の歴史や教育・研究の理念を知る-
第7回　松永を知る　-松永の歴史・産業と松永はきもの資料館の紹介-
第8回　バイオの歴史　-古典的バイオについて知る-
第9回　第1回教養講座　西海賢二先生「瀬戸内の民間信仰　-神仏を求めて～石鎚信仰・四国遍路～」
第 10 回　バイオの歴史　-現代バイオについて知る（1）-
第 11 回　バイオの歴史　-現代バイオについて知る（2）-
第 12 回　挨拶、マナー、礼儀について　-挨拶、マナー、礼儀を知る-
第 13 回　大学祭学科展示の企画　-グループディスカッション等により展示企画を考える-
第 14 回　第2回教養講座　渋谷浩介先生「備後圏の里山・里海資本主義～知っているようで知らないその魅力と可能性」
第 15 回　前期の学修・生活を振り返って　-前期の総括を行い、後期にどのようにするか考える-
後期
第 16 回　夏休みの出来事　-夏休みの出来事の報告-
　　最近のトピックス　-最近のトピックスの情報を収集し、内容とコメントをまとめる、グループディスカッション
第 17 回　大学祭の準備　-大学祭の展示物の作成-
第 18 回　大学祭の準備　-大学祭の展示物の作成-
第 19 回　第3回教養講座　松浦史登先生「第三の生命の鎖、糖鎖、への誘い　-糖鎖が関係する身近な事例から」
第 20 回　大学祭での展示発表
第 21 回　大学祭の総括　-大学祭展示発表の成果、来年度の課題のグループディスカッション、発表-
第 22 回　学修スキル　-実験ノートの作成法を学ぶ-
第 23 回　学修スキル　-実験データの整理法を学ぶ-
第 24 回　第4回教養講座　小林崇志先生「1000 分の 1 秒を削る挑戦～レーシングドライバーの仕

事と魅力～」
第 25 回　学修スキル　-実験レポートの作成法を学ぶ-
第 26 回　キャリア設計　-卒業後の進路の可能性について知る-
第 27 回　キャリア設計　-資格取得やインターンシップについて知る-
第 28 回　2年次の学修に向けて　-将来の夢を達成するための学修計画を立てる-
第 29 回　第5回教養講座　山田　満先生「別創ライフのススメ」-人生 100 年時代を豊かに生きよう-
第 30 回　1年次の学修・生活の総括　-学修・生活を総括し、どんな教養を身に付けたか考える-

■　成果について

(1)教員が受講生と緊密なコミュニケーションを図りながら、新入生オリエンテーションの追加(履修登録の指導)、「大学での履修」、「生徒と学生の違い」、「自己管理術」の解説、大学における学生生活や図書館利用のオリエンテーションなどの指導を行うことで、受講生が高校から大学の学修・生活にスムーズに移行でき、また学修意欲を高めることができた。
(2)年間目標を設定することで充実した生活を送れ、目標を達成することで自己を成長させることができたと思われる。
(3)古典的バイオと現代バイオを紹介する講義を受け、生物工学に対する興味が増し、学修意欲が向上した。また、最近のトピックスの情報を新聞、テレビ、インターネットのホームページなどから収集する方法と情報の整理方法を学んだ。実際に情報を収集して、内容を要約し、トッピクスに対する自身の意見を述べ、幅広い教養を身に付けるためのスキルを修得できたと思われる。
(4)ノート作成、実験データ整理、レポート作成を指導することで、学修スキルとこれらを行う習慣を身に付けることができた。
(5)大学祭の学科展示の企画、準備、展示発表によって、教員、友人，先輩との信頼関係を築け、さらにコミュニケーション力、協調性、自主性が向上した。
(6)挨拶、マナー、礼儀を幾らか醸成することができた。
(7)卒業後の進路や将来の夢について考え、これらの実現に向けて、キャリア設計を検討し、2年次の学修計画を立てた。

■　次年度への課題

(1)初年次教育として、学修スキルの紹介・指導などを実施したかったが、内容が生物工学科1年次開講科目の「バイオ演習 I」と重複するため、実施できなかった。カリキュラム変更により実施できるように検討する。
(2)スポーツ大会を実施する予定であったが、実施できなかった。スポーツ大会は、1年生と上級生や教員との親睦の目的もある。全員が参加できるように例年土曜日に実施していたが、今年度は働き方改革により土曜日に実施できなくなり、全員が参加できる日程を調整できなかった。
(3)アクティブラーニングとして、大学祭の展示発表を実施した。展示発表では、来客者が訪れても、積極的に展示の紹介・説明する学生が少なかった。次年度はさらに積極的に行動するように指導したい。
(4)最近のトピックスについての課題は1回だけ提出させた。情報の収集・整理を習慣付け、幅広い教養を身に付けるために、次年度以降は課題のトピックス数を増やしたり、何回か繰り返し実施した方が良いと思われる。
(5)福山大学ワインプロジェクトの一環でブドウ栽培の一部を行うシラバスを提示したが、日程や天候の都合で、予定通りには行えなかった。次年度はプロジェクトの概説としたい。
(6)松永を知るために松永はきもの資料館の見学を予定していたが、日程や学生の授業時間割の都合で、松永の歴史・産業と松永はきもの資料館の紹介に変更した。次年度は、実施内容の変更を検討する。

生命工学部　生命栄養科学科

■ 担当者氏名

(代表)菊田安至
山本英二、井ノ内直良、田中信一郎、久保田みどり、石井香代子、西　彰子、村上泰子、中﨑千尋、
柴田紗知

■ ゼミ数，ゼミの学生数

学生数:43 名　　ゼミの学生:6～7 名
(前期の少人数制ゼミで実施とクラス全体で実施し、後期も同様に)

■ 前期実施内容

第 1 回:生命栄養科学科入門 1 》学科のカリキュラムを知る (担任;久保田、近藤、村上(教務委員))
第 2 回:生命栄養科学科入門 2 》大学生活を組み立てる(学生生活指導、学科ルールなど)(担任)
第 3 回:学科の教員・学生を知る、交流を深める 》親睦スポーツ大会　※2 コマを使用し実施
第 4 回:学科の教員・学生を知る、交流を深める 》親睦スポーツ大会
第 5 回:学修スキルの修得 1 》大学の講義とノートの取り方(久保田、近藤、村上)
第 6 回:大学の施設を知る:図書館、保健管理センター訪問
第 7 回:管理栄養士のキャリアプラン 1 》目指せ！管理栄養士資格取得 (井ノ内、石井)
第 8 回:学修スキルの修得 2 》読解力を身につけよう(村上、田中、柴田)
第 9 回:幅広い教養の修得 1 》第 1 回教養講座
第 10 回:学修スキルの修得 3 》自分の考えを整理する力(論理的思考を身につけよう)(村上、田中、柴田)
第 11 回:大学祭参加の心構え(学祭での交流について)/地域との協働(校外活動の準備)(学科教員)
第 12 回:地域との協働　校外活動①
第 13 回:社会人マナーの醸成 1 》環境に応じた対応力を身につけるには？
第 14 回:社会人マナーの醸成 2 》効果的に意見交換をする為には？
第 15 回:大学祭を考える 》"祭り"から学ぶこと

■ 後期実施内容

第 16 回:幅広い教養の修得 1 》第 2 回教養講座　講師;藤谷浩介氏
第 17 回:大学祭に取り組む① 》大学での発表テーマの検討、企画など (中﨑、西)
第 18 回:　　〃　　② 》大学祭での担当係の意義・目的
第 19 回:　　〃　　③ 》大学祭での担当の実践
第 20 回:　　〃　　④ 》大学祭での担当の実践
第 21 回:幅広い教養の修得 1 》第 3 回教養講座　講師;松浦史登氏
第 22 回:大学祭参加のリフレクション 》自分にできたこと、できなかったことは何か？(西、中﨑)
第 23 回:管理栄養士のキャリアプラン 2 》チーム作業に必要な栄養専門職対人スキル(田中、柴田、村上)
第 24 回:幅広い教養の修得2 》第 4 回教養講座　講師;小林崇志氏
第 25 回:管理栄養士のキャリアプラン 3 》目指す職場で必要な栄養専門職スキル(村上、柴田、田中)
第 26 回:管理栄養士のキャリアプラン 4 》キャリアデザインⅠの学修効果の再認識(田中、村上、柴田)
第 27 回:臨地実習とは？ 》臨地実習出発式・臨地実習発表会の聴講(久保田、近藤)
第 28 回:地域との協働② 》校外活動 3 (山本、菊田ほか)
第 29 回:幅広い教養の修得 》第 5 回教養講座　講師;山田　満氏
第 30 回:卒業研究発表会の聴講 》研究の面白さを覗いてみよう！(久保田、近藤)

■ 教養ゼミの成果

前期において、大学生として速やかに学修になじめるよう学修方法の実際を紹介、学科のカリキュラムの提示と説明、大学の設備や学生生活で必要な事務等の説明も行った。授業の受け方やノートの取り方など、実践的な部分で、不安に思っている事なども聴取しながら指導した。また、目指す管理栄養士の専門性なども示し

た。クラス員との協働を通して、コミュニケーション能力の向上を目指し、大学祭をテーマにスモールグループディスカッションも取り入れた指導を行った。
　後期は、前期から進めていた社会人基礎力の修養も計画的に取り組んだ。大学祭の企画・運営・参加によって各学生の自立心の向上も目指すことができた。高学年の活動の知ることで将来の自分を想定し、4 年間の目標を立てる機会を作った。

■ 問題点，改善点，次年度に向けた課題

　国家試験合格、免許取得が本学科の目標と考えているが、学力不足、学修意欲が低い学生が入学している。そのため、学修について来れない学生が学生生活も不安定である。基礎学力の向上を支援する仕組みを早期から進めることが必要と思われる。クラス担任の面談を密に行い、支援できる可能性を示した方が良いよいが、学生の学修意欲が非常に重要で左右される。
　将来専門家になる未来像を早期から、繰り返し見せる・示すなど前を向かせる工夫と、現時点での学修（低学年）が重要であることをしっかり指導する。具体的には国試問題の提示などを行いながら、各教科目との関連性を説明するなどである。

生命工学部　海洋生物科学科

■ 担当者氏名

（代表） 三輪泰彦

■ ゼミ数，ゼミの学生数

ゼミ数：13
ゼミの学生数：8-9 名
全学生数：114 名

■ 前期実施内容

1）全体ガイダンス：教養ゼミの内容説明、履修、授業、試験、学習支援等の補足説明、研究者（学生）求められる研究倫理の説明
2）自己紹介（自己紹介シートおよび自己紹介発表原稿の作成）
3）図書館の利用法によるガイダンス
4）個人面談-学生生活、欠席調査など
5）大学祭の展示企画-1　テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
6）大学祭の展示企画-2　テーマおよび展示の原案作成-グループディスカッション
7）大学祭の展示企画-　テーマの決定-全員でディスカッション
8）大学祭の展示企画-　大学祭の物品リストの作成-　テーマごとにディスカッション
9）前期定期試験への心構え

■ 後期実施内容

1）大学祭の計画-工程表の作成
2）大学祭の準備-1　ポスター、看板、展示物の作成、準備作業の役割分担等
3）大学祭の準備-2　水槽のセットアップ、メダカの飼育、金魚の飼育、展示する魚の採集、瀬戸内海の様々な生態に関する展示物の作成等
4）大学祭の準備-3　会場の設営、展示物の備え付け、大学祭当日の役割分担およびスケジュールの調整等
5）大学祭-　来場者への対応
6）大学祭-　あとかたづけ
7）個人面談-欠席調査など
8）大学祭の反省会
9）後期定期試験への心構え

■ 教養ゼミの成果等

（1）スモールグループディスカッションによる少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
（2）学生生活や教務（履修方法、欠席調査、ゼルコバの操作方法、定期試験への対応など）の情報を学生に周知させ、サポートすることができた。
（3）大学祭展示企画のテーマを決定するために各グループで提案された企画案について全体討議を行うが、平成 27 年度からは、その司会進行を学生に任せている。今年度も引き続き学生が立候補して 2 名が司会進行役を務めてくれた。
（4）プロダクトとして大学祭の展示企画（3つのテーマ、展示内容、必要物品等）についてまとめることができた。テーマ：1）感じる瀬戸内海・2）メダカ釣り・3）金魚すくい（定番）。

(5)大学祭を通じて学生同士の団結力(仲間意識や絆)を高めることができ、イベントに参加したことでやりがいを感じてもらった。大学祭を通じて友人がつくることができた。一方、同級生に指示する際にはリーダーシップやコミュニケーション力の大切さを学ぶための良い機会を与えることができた。
(6)大学祭の来場者(小中学生や高齢者、親子連れなど)への応対を通して、教員や学生以外の人とコミュニケーションをとる経験ができた。たとえば、知識を全くもたない人(たとえば金魚の飼い方など)に興味を持って理解してもらうためには、何をどのようにして伝えたらよいのか、実践することでコミュニケーションを取ることの難しさや、コミュニケーション力を身につける必要性を学ぶことができた。
(7)飼育している生物の管理が不十分で生物が死んでしまうことから、命の大切さや生きている生物の展示の難しさを学ぶ良い機会にもなった。
(8)大学祭の水槽などのかたづけ作業では 2 年生、3 年生、4 年生が指導して男子も女子も、率先して行ってくれたので責任感をもたせることができた。また、先輩との親睦も深めることができた。
(9)学生 1 人1人に、自分が担当した展示企画の問題点、反省点、今後の改善点、学科展示に参加した感想などをそれぞれ、まとめてもらった。
(10)平成 30 年度の改善点の一部を今年度にフィードバックすることができた。

■ 問題点, 改善点, 対応策

(1)教養ゼミの時間割調整が難しい。本学科では学生実験や会議、出張等によって一部の教員はスケジュール合わせができないことがある。また、因島キャンパス専任の教員は、因島キャンパスから本学に移動するため、教員の負担が非常に大きい。
(2)今年度も昨年度と同様に積極的にテーマごとにリーダー、副リーダー、書記に立候補し、その運営に指導力を発揮してもらった。今年度も、しっかりとリーダーシップを発揮する学生が見られた。しかしながら全体で3テーマあることから1テーマあたりの学生数が 30～40 名と非常に多いので学生リーダー、副リーダーだけでは展示企画の仕事を進めていくのが非常に難しいと感じた。今年度も1テーマあたり、3 グループに分けて役割分担を決め、グループごとのリーダー、副リーダー、書記を中心にして運営を進め、テーマのリーダーが各グループを統括するようにした。
(3)大学祭は基本的に全員参加であるが、一部の学生は執行部の三蔵委員や各サークルに所属しており、大学祭の期間は執行部やサークル活動の仕事にそれぞれ専念してもらった。その際、担任にその旨、報告・連絡させた。一方でテーマごとに一部の学生の負担(準備や当日の展示運営)が大きいことも問題となった。
(4)大学祭やスモールグループディスカッションにおいて学生が主体となって取り組むことができる環境づくり(目標をしっかり理解してもらう、学生の意見や考えを発表しやすい雰囲気をつくること、積極性を引き出す手法を考えることなど)を継続して行っていく。
(5)昨年度と同様に、学生からのアンケート調査を行い、展示企画の問題点、反省点、今後の改善点を次年度の教養ゼミにフィードバックしていく。
(6)海洋生物科学科の 3 研究室(水産資源生態学研究室、アクアリウム科学研究室、海洋動物行動学研究室)による研究紹介とジョイントした。また、海洋の学生が主に参加している海洋生物研究会による「近隣の川や海に生息する生き物の生態展示も並行して行った。1年生は4年生の研究室紹介や海洋生物研究会による展示に興味を示し、先輩達の研究内容を積極的に聞く学生も一部にみられた。少しずつ学年間の交流が円滑にみられるようにアクティブラーニングを通じて「学年の縦のつながり」を構築していきたい。

薬　学　部

■ 担当者氏名

(代表)山下純*
(担当)井上裕文*、岡村信幸、長崎信浩、猿橋裕子、前田頼伸(薬学入門担当)
松岡浩史、秦季之、杉原成美、赤崎健司(クラス担任)
*:クラス担任兼務

■ ゼミ数，ゼミの学生数

新入生全員に対し、薬学入門Ⅰならびに教養講座において教養ゼミを実施した。

■ 実施内容

1 薬学入門Ⅰ(担当責任者:山下純)
学年を3つのクラスに分け、各授業ではクラス単位でスモールグループディスカッション(SGD)を行い、薬学入門担当教員(1～2名)ならびにクラス担任(2名)がチューターとして指導を行った。
※日程・方略は別紙参照
2 教養講座(担当責任者:山下純)
教養講座(5回)を受講後、レポートを毎回提出させ、クラス担任が指導を行った。

■ 教養ゼミの成果等

学生が主体となって能動的に学習・情報共有、さらに体験することによって『気づきの学習』を実践することで、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

・学生ー教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
・薬学生としてのモチベーションの醸成
・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
・能動学習のための動機づけ
・問題解決能力の向上
・挨拶、マナー等の社会性の涵養

■ 問題点，改善策等

・学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。

薬学入門前期（平成31年度）

別紙3

4月

		3	4	5
1	月			
2	火			
3	水			
4	木			
5	金			
6	土			
7	日			
8	月	方略1(P1)		
9	火	方略1(P2)		
10	水	方略1(P3)		
11	木			
12	金			
13	土	方略2(管先生)		※1，2限目
14	日			
15	月	方略3(P1)		
16	火	方略3(P2)		
17	水	方略3(P3)		
18	木			
19	金			
20	土	プレイスメントテスト		※1，2限目
21	日			
22	月	方略4（P1）		
23	火	方略4（P2）		
24	水	方略4（P3）		
25	木			
26	金			
27	土	プレイスメントテスト		※1限目
28	日			
29	月	昭和の日		
30	火	退位の日		

5 月

		3	4	5
1	水	即位の日		
2	木	国民の休日		
3	金	憲法記念日		
4	土	みどりの日		
5	日	こどもの日		
6	月	振替休日		
7	火	方略5（P2）		
8	水	方略5（P3）		
9	木			
10	金			
11	土	方略5（P1）		※3，4，5限目
12	日			
13	月	方略6（P1）		
14	火	方略6（P2）		
15	水	開学記念日		
16	木			
17	金			
18	土	方略6（P3）		※3，4，5限目
19	日			
20	月	方略7（P1）		
21	火	方略7（P2）		
22	水	方略7（P3）		
23	木			
24	金			
25	土	方略8(山中先生)		※1，2限目
26	日			
27	月	授業予備日		
28	火	授業予備日		
29	水	授業予備日		
30	木			
31	金			

6 月

		3	4	5
1	土			
2	日			
3	月	中間試験		
4	火			
5	水			
6	木			
7	金			
8	土			
9	日			
10	月	方略9A(体験学習)（P1）		
11	火	方略9A(体験学習)（P2）		
12	水	方略9A(体験学習)（P3）		
13	木			
14	金			
15	土	授業予備日		※1，2限目
16	日			
17	月	方略9A(体験学習)　（P1）		
18	火	方略9A(体験学習)　（P2）		
19	水	方略9A(体験学習)　（P3）		
20	木			
21	金			
22	土	授業予備日		※1，2限目
23	日			
24	月	方略9A(体験学習)（P1）		
25	火	方略9A(体験学習)（P2）		
26	水	方略9A(体験学習)（P3）		
27	木			
28	金			
29	土	授業予備日		※1，2限目
30	日			

7 月

		3	4	5
1	月	方略9B(発表会準備)（P1）		
2	火	方略9B(発表会準備)（P2）		
3	水	方略9B(発表会準備)（P3）		
4	木			
5	金			
6	土	全学授業予備日		※1，2限目
7	日			
8	月	方略9C　発表会　（P1）		
9	火	方略9C　発表会　（P2）		
10	水	方略9C　発表会　（P3）		
11	木			
12	金			
13	土	全学授業予備日		※1，2限目
14	日			
15	月	海の日		
16	火			
17	水			
18	木			
19	金			
20	土	全学授業予備日		※1，2限目
21	日			
22	月			
23	火			
24	水			
25	木			
26	金			
27	土	前期定期試験		
28	日			
29	月	前期定期試験 （8月5日まで）		
30	火			
31	水			

㊟ 後期の「薬学入門Ⅱ」は9月21日(土)1、2限からスタートです。

薬学入門前期方略（平成31年度）　　別紙4

方略	到達目標	日	細目	学習内容		場所	人的資源	時間（分）	備考
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。	4月8～10日 （月-水） 3－4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	1－1	講義	1. 薬学入門について（約15分） 2. SGDについて 3. KJ法について	研修室1	井上・山下 長崎・岡村 （クラス担任）	35	資料配付・作業説明
	【今心にあること】 希望、期待、不安を認識する。		1－2	SGD	「今心にあること（希望、期待、不安）」を抽出（KJ法）	研修室1	担任	15	資料配布：課題（1） 「今心にあること」をタックシールに書き出す
			1－3	SGD	「今心にあること（希望、期待、不安）」の島とタイトルを作成する（KJ法）		担任	40	模造紙に島とタイトルを作成する
			1－4	SGD	今日からできること（今後の行動目標）		担任	20	資料配布：課題（2）
			1－5	発表	発表（各5分）・総合討議（各15分）	研修室1,2	担任	60	
2	【ヒューマニズム・コミュニケーション】 行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする。	4月13日（土） **1－2時限**	2	講義	1 身体とこころの体感・気付きのワーク 2 グループワーク （お友達の力を借りて問題解決）	研修室1，2	菅 （担任）	180	
3	【薬とその適正使用】 1.「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを討議し、概説できる。	4月15～17日 （月-水） 3－4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	3－1	講義	「人にやさしい薬・良い薬（薬の種類や分類）」について（KJ法）	研修室1	井上・山下・山下/井上（説明） （月、火、水）	15	作業説明
			3－2	SGD	「人にやさしい薬・良い薬（薬の種類や分類）」について抽出（KJ法）	研修室1		15	意見をタックシールに書き出す
			3－3	SGD	「人にやさしい薬・良い薬（薬の種類や分類）」の島とタイトルを作成する（KJ法）		担任	30	模造紙に島とタイトルを作成する
			3－4	発表	発表（各5分）・討議（各5分）	研修室1,2	担任	50	発表：模造紙
			3－5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	

4	【薬剤師の活動分野】 1. 薬剤師の活動分野について概説できる。 2. 自分の将来の進路とその仕事内容について討議する。	4月22～24日 （月-水） 3－4時限 P1:月曜日 P2:火曜日 P3:水曜日	4－1	講義	「薬剤師の仕事の種類 （卒後の進路と仕事内容）」 について	研修室1	井上・山下・山下/井上（説明） （月、火、水）	15	作業説明
			4－2	SGD	「薬剤師の仕事の種類 （卒後の進路と仕事内容）」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
			4－3	SGD	「薬剤師の仕事の種類」についてマインドマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成
			4－4	発表	発表（各5分）・討議（各5分）	研修室1,2	担任	50	発表：模造紙
			4－5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	書籍を利用して調査
5	【薬剤師の活動分野】 1. 病院ならびに保険調剤薬局における薬剤師の 役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、 その仕事を概説できる。 3. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割に ついて討議し、概説できる。 【事前学習】 1. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	5月7日、8日、 **11日** （火、水、土） **3－4時限** **P1:土曜日** P2:火曜日 P3:水曜日	5－1	講義	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 （仕事内容と係り合い）」 について	研修室1	山下・山下/井上・井上（説明） （火、水、土）	15	作業説明
			5－2	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事 （仕事内容と係り合い）」 について抽出	研修室1	担任	15	カードに意見を書いてグループ内で発表
			5－3	SGD	「病院・保険調剤薬局の薬剤師の仕事」についてイメージマップの作成		担任	40	模造紙にマップを作成
			5－4	発表	発表（各5分）・総合討議（各15分）	研修室1,2	担任	50	発表：模造紙
			5－5	調査 SGD	疑問点についての調査とまとめ	研修室1	担任	60	書籍を利用して調査
			5－6	SGD	見学施設への質問内容をリストアップ		担任	20	ホワイトボードに意見を書く USBメモリー持参 自己紹介票の雛形配付

6	【事前学習】 1. 見学施設におけるマナーならびに 注意点などを討議する。 2. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに 質問内容について討議する。	自己学習			調査課題：見学施設への質問内容や専門用語について				
		5月13日、14日、 **18日** （月、火、土） **3－4時限** P1：月曜日 P2：火曜日 **P3：土曜日**	6－1	講義	訪問時の注意点や事前連絡の 仕方について	研修室1	井上・山下・山下/井上　（説明） （月、火、土）	10	作業説明
			6－2		訪問時の注意点や事前連絡の 仕方について討議	研修室1	担任	30	ホワイトボードに まとめる
			6－3	発表	発表（3分）・討議（5分）			60	発表：ホワイトボード
			6－4	DVD	発表準備（注意事項や質問内容など）	研修室1	山下／井上（説明）	40	
			6－5	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や 見学施設への質問内容を再討議	研修室1	担任	20	
			6－6	SGD	質問票の作成			20	質問票の雛形配付 USBメモリー持参
			事前連絡		見学施設（指導薬剤師）へ連絡し、事前に訪問時間等を調整				
			自己学習		質問内容や専門用語について充分学習しておく				
7	【グループ学習方法を学ぶ】 みんなで学習しよう	5月20日～ 5月22日 月-水） 3－4時限 P1：月曜日 P2：火曜日 P3：水曜日	7	SGD	各科目の問題を個人およびグループで解答する。	研修室1	井上（説明） 薬学入門担当教員	180	作業説明 資料の配布
8	【マナー・コミュニケーション・薬剤師について】 薬学生としての心得や理想の薬剤師について学ぶ。	5月25日（土） **1－2時限**	8	講義	1. 基本的なマナー・コミュニケーション 2. 薬剤師のやり甲斐	研修室1，2	山中 （担任）	180	レポート提出
9	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療 スタッフの業務を見聞し、その重要性に ついて自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を 見聞し、その重要性について意見を まとめ、発表する。	6月10日～ 6月26日 ※詳細は 日程表参照	9A	見学	体験学習	病院	指導 薬剤師	60～ 240	
						薬局		60～ 240	
		自己学習			討議・まとめ・発表準備				
		7月1～3日 （月-水） 3、4時限	9B	SGD	発表準備 後期実習施設選択	研修室1	担任	180	ノートPC 施設選択票の配付・回収
		7月8～10日 （月-水） 3、4時限	9C	発表	発表・討議（各5分）	研修室1	担任	180	クラス別公開発表会 （施設単位）

大 学 教 育 セ ン タ ー